

国際公共政策研究センター
主任研究員 神野

アレクセイ・チェスナコフ氏週報(2/2/2011)

2010年9月のモスクワ出張時に面談し、ロシアの改革動向について詳細な説明を頂いたアレクセイ・チェスナコフ (Алексей Чеснаков) 氏は、同氏が所長を務める政治動向センターのホームページに、毎週「средине недели (週央にて)」と題するコラムを執筆している。これはロシアの政治動向について簡潔にまとめたうえで論評を加えたものである。この種のロシアのメディアは数少ないため今後適宜参照することとする。

エリツィン氏 80 回目の誕生日にあたる日に

ロシアの初代大統領、ボリス・エリツィン氏の 80 回目の誕生日¹を記念する行事は、ロシアにとって非常に重要な意味を持つ。それは国家が価値概念及び目標を設定することの重大性を改めて認識する機会となるだろう。

だが、我々はここで細かい点に注目する必要がある。それは、エリツィン氏を評価するにあたっては、彼の政治家としての行動だけではなく彼が後の世に残した功績までしっかりと見据えることである。我々は政治家について彼らの現状の行動だけでもって議論することに慣れてしまっており、それだけその政治家の歴史的価値を判断しがちである。だが、これまで我々は政治家について、その時代の世界の変動の文脈で検証することを怠ってきた。

エリツィンは間違いなく世界規模の現象であり、彼の反対勢力及び批判勢力の誰をも上回る真摯な人間であった。もちろん、彼の政治的遺産が歴史家だけでなく、将来政治家の道を志す人々からも評価されるには、さらに長い時を要することは言うまでもない。だが、エリツィンの行動と彼の時代の特徴を十分に評価することなしに、今の政治家が真の意味におけるステーツマンとなることはないであろう。

「警察に関する」

「警察に関する」法律は本日上院において承認され、近く大統領がこれに署名する。恐らくこの法律ほど長い時間をかけて議論が尽くされた法律はないだろう。この法律の様々な側面 (名称から施行後のシステムまで) が、ほぼ半年かけて議論され、専門家及び一般市民から活発に意見が出された。このことからいくつかの結論を導き出すことができる。まず、重要な法律について

¹ ボリス・エリツィン氏は 1931 年 2 月 1 日生まれ。

大衆的討論を行う範囲を拡大すべきである。次に、議論の期間はあまり短くすべきでない。国民には意見を表明するだけでなく、意見が異なる人々と議論し、反対派を説得するための時間が必要である。そして、国民は法律の施行状況をよく監視し、必要であれば速やかに改正を求めるべきである。

大司教総会議

今日、水曜日にロシア正教会の定例大司教総会議が開催される。昨日 2 月 1 日はキリル総司教の就任 2 周年であった。この 2 つのイベントは重要な政治的意味を持つ。

今日の国民生活におけるロシア正教会の役割は、どんなに評価しても評価し過ぎることはない。教会はロシアの安定性を維持するための主要な機関の 1 つとなっている。政治家および著名人も教会の意見を尊重せざるを得ない。

司祭達は、社会道徳や文化的側面における様々な問題の重要性を、他の人々よりも敏感に感じ取ることが多い。もちろん私も、多くのいかさま師や偽伝道師では満たすことのできない空虚なスペースを埋めるために、現代社会の様々な出来事や事象に対する彼らのタイムリーでバランスの取れた見方を必要としている。現在の多くの切迫した問題についても、ロシア正教の意見が求められている。

以上